

① 南アメリカ



土地利用と植生

- 耕地
- 草地
- サバナ
- 温帯林
- 熱帯林
- マングローブ
- 砂漠
- 高山地域
- コーヒー
- とうもろこし
- 日本人の移住地
- 国際協力事業団の進出地
- おもな世界遺産
- おもなラムサール条約登録湿地

緯度くらべて広さをくらべて
南アメリカとアフリカの比較

地図をみる目
アマゾンの熱帯林が日本の面積の何倍もの大きさで広がっていることに着目しよう。



自然をテーマに、p.58①「南アメリカ」を見ていきます。まず、南アメリカ大陸の自然をとらえるうえで重要な熱帯林に着目してみます。本図では熱帯林が広がるようすをイメージしやすいよう緑色で着色し、さらに木々が生き茂るようすが伝わるようにモコモコとした模様を入れています。実際に地図を見ると、熱帯林がアマゾン川流域に広がっているようすが目に飛び込んできます。本図には、絶滅の恐れがある動物をイラストで記載しているため、熱帯林と動物のかかわりを考えることができます。また、アマゾンの開発道路や森林の保護区域も記載したり、森林が燃えているところを知ることができる付図「衛星からとらえた夜のアマゾン地域」を掲載したりしているため、熱帯林の開発と保護についても考えることができます。

一方、アンデス山脈に着目してみます。この地域には高山地域や砂漠が広がっています。高山地域は薄紫色で着色して荒涼としたイメージ、砂漠は薄茶色で着色して乾燥したイメージが伝わるようにしています。同時に、高い山があるところにはレリーフ（陰影）を重ね、陸地が盛り上がって見えるようにも工夫しています。アンデス山脈を他の地域と見比べると、陸地がぐっと盛り上がって見えてきます。また、よく見ると、この地域には意外にも都市が多いことに気がつきます。赤道付近では、低地よりもアンデス山脈の高山地域のほうがかえってくらしやすいのがその理由ですが、これを教室で考えてみるのも面白いと思います。このように、地図帳から環境問題や人々のくらしも理解できるようにしています。
(帝国書院編集部)